

ISO/TC 269 第12回総会が日本で開催されました

2023年6月14日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）では、鉄道国際規格センターを設置し、会員の皆さまとともに、鉄道分野の国際標準化など国際規格に関わる活動を推進しています。

このたび、ISO（国際標準化機構）/TC 269（鉄道分野専門委員会）の第12回総会が開催され、鉄道国際規格センターが、総会と分科委員会の運営を務めました。

日本での開催は2013年11月の第2回総会以来2回目です。また、コロナ禍によりここ3年間はウェブ方式のみでの開催でしたが、今回は対面を主体とした開催となりました。

1. 総会の日程等について

- ・日程 6月9日

（参考）6月6日～8日：分科委員会

- ・開催場所 ベルサール神保町（東京都千代田区）

- ・参加者 134名（対面：82名、ウェブ：52名）

（国外）17か国108名（対面：59名、ウェブ：49名）

（国内）鉄道事業者、メーカー、鉄道総研のほか、オブザーバーとして国土交通省及び経済産業省 26名（対面：23名、ウェブ：3名）

2. 概要

ISO/TC 269 におけるこの一年間の審議結果やプロジェクトの進捗状況を確認するとともに、新たな規格の検討開始とその審議体制を決定する役割を担っています。

冒頭、田中裕議長（鉄道総研）が開催宣言を行い、次の審議が行われました。

- ・ISO/TC 269 の直下に設置された9つのプロジェクトにおける規格審議の進捗状況の報告やこれに対する議論が行われ、車輪とレールの接触幾何に係る規格審議などの進捗が了解されました。
- ・ISO/TC 269 の下に位置する分科委員会での報告から、合計34件の各プロジェクトについて新規規格提案と規格審議プロジェクトの進捗状況の議論が行われました。34件のプロジェクトには、日本が主導する案件「車両用空調装置第4部」、「運転時分計算第2部」、「自然災害における鉄道オペレーション」6件が含まれます。

－「分岐器」、「転てつ機」などインフラストラクチャ関係 12件

－「荷物棚」、「車両用照明」など車両関係 15件

－「車両技術文書」、「特殊貨物」などオペレーションとサービス関係 7件

今回、日本の多くの関係者が出席し、規格審議の進捗状況や新規規格に関する議論を行うなど、参加国に対して日本が国際標準化に果たしている役割を示すとともに、ISO/TC 269 における日本のプレゼンスが向上する総会となりました。

なお、次回総会開催地としてスウェーデン（ストックホルム）が採択され、来年6月に開催されることになりました。



総会の様子



総会参加者集合写真

(問い合わせ先) 公益財団法人鉄道総合技術研究所総務部 広報 TEL : 042-573-7219